

正門 (県指定有形文化財)

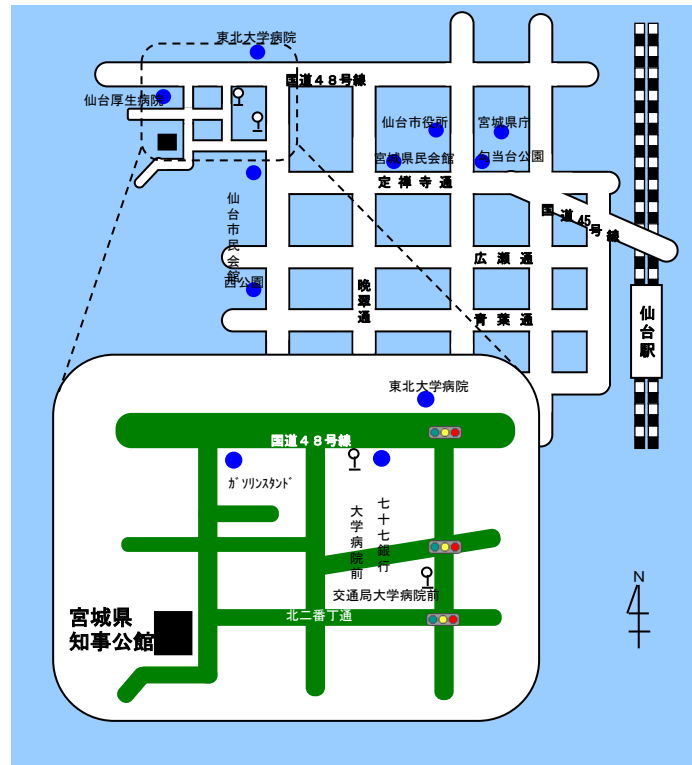
切妻造の四脚門と呼ばれる形式の門で屋根は本瓦葺であり、規模は小さいが、豪壮さをもつ。

この門は、仙台城にあった門を大正年間に当時の第二師団長官舎の正門としてこの地に移築したものと伝えられ、仙台城の面影を伝える数少ない遺構の一つとされている。建築年代は幕末と見られているが、仙台城のどこにあった門かは明らかではない。

扉は移築時に新しくつけられたものである。また、昭和四十六年には屋根の復原修理が行われており、鯨はこの際にのせられたものである。

記

桁行 (柱真々)	4.54m
張間 (柱真々)	1.53m
屋根巾	7.40m
棟高さ (棟瓦上端より地盤まで)	6.08m



仙台駅からの交通アクセス

仙台駅前バスのりば(西口バスプール)「10」「13」「14」「15」「60」番から東北大学病院方面行きのバスに乗り、「交通局東北大学病院前」または「東北大学病院前」下車後、徒歩約5分。



所在地：仙台市青葉区広瀬町5番43号
管理者：宮城県
お問合せ先：宮城県総務部秘書課
電話番号 022-211-2212
Eメール hisyo@pref.miyagi.jp

宮城県知事公館

見学のしおり



知事公館の変遷

元禄8年(1695年)四代藩主伊達綱村の家臣田村内蔵允(たむらくらのすけあきゆき)は、藩主の命により現在の知事公館のところに邸宅を建築した。

その後内蔵允は綱村に請い、屋敷前から下へ崖に坂をつけ河岸通を澱橋まで道路を通した。

この田村邸の坂を人呼んで新坂と称し、仙台北城下の大坂、扇坂、藤ヶ坂、玄貞坂、茂市ヶ坂、石名坂に新坂を加えて仙台北七坂と称した。

維新後同邸は仙台北市長山田揆一氏の手に移り、それを米国バプテスト婦人外国伝道協会から派遣された宣教師(ミス・ファイフ等)が借り受け、明治23年婦人伝道師養成のため私塾を開き、やがて現在の尚絅女学院の前身である尚絅女学校を開校した。

その後同邸は山田弘仙台北衛戍(陸軍)病院長邸宅になり大正中期には第二師団長(第9代中島正義中将)官舎として改築し使用され、また、終戦後は米軍に接收され師団長官舎は駐留軍東北司令官(第16軍団ブライアン少将)官舎になった。

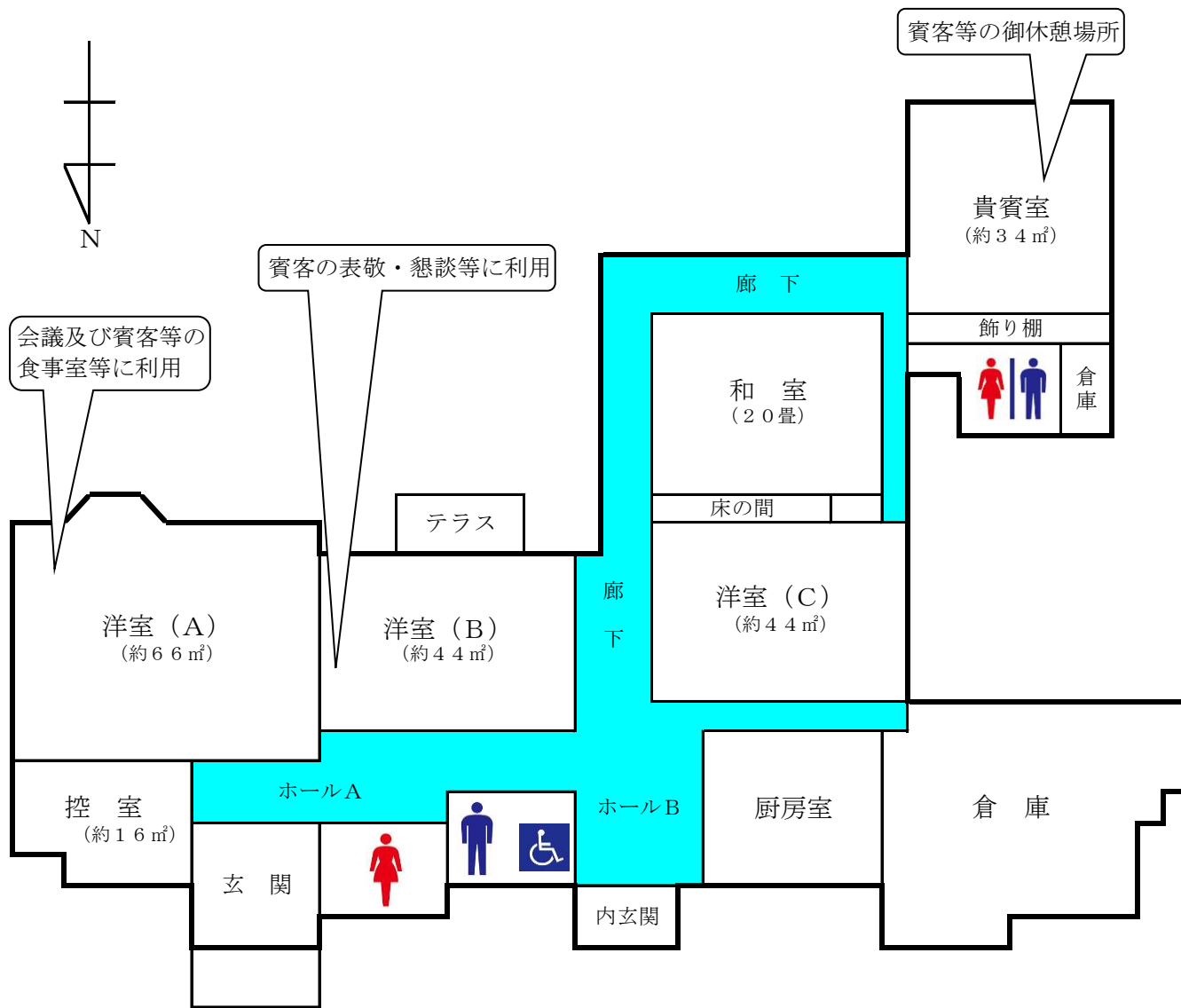
米軍に接收されていた旧第二師団長官舎は、国(東北財務局)に返還されたため、県は、現在の県中央児童館の前身である児童会館として活用するため、昭和33年、東北財務局より譲渡を受け、その後建物の一部を増改築し開館した。

同館には県内ではただ一つのグローブジャングル(地球型のグルグル回り)が備えられ、静かで庭も広く児童館としては最適な場所であった。

昭和40年からは知事公館として、諸外国の大公使、皇族等賓客を接遇するところ、いわゆる迎賓館として使用しており、昭和57年及び昭和61年には浩宮殿下(現皇太子殿下)が来館されている。

なお、知事公館のある広瀬町(旧新坂通)の町名については、昭和45年2月1日、住民のアンケートにより命名された。

知事公館平面図



敷地面積 4,753.14㎡ (1,440.3坪)

建物面積 472.99㎡ (143.3坪)